

高齢者の尊厳を守るために

—— 身体拘束ゼロに向けての実践事例 ——



平成 1 7 年 3 月

沖縄県福祉保健部長寿社会対策室

沖縄県身体拘束ゼロ作戦推進会議

は じ め に

平成12年4月の介護保険制度の施行により介護保険施設等では身体拘束が原則として禁止され、介護の現場においては身体拘束のないケアの実現をめざして様々な取り組みが行われてきました。現在、国においては平成17年度の通常国会で介護保険制度改革法案が上程され、審議が行われていますが、制度の基本理念である「高齢者の尊厳を支えるケア」を実現するためには、身体拘束廃止に向けた取り組みが今後ますます重要になってきます。

沖縄県においても、身体拘束ゼロ作戦推進会議を設置し事業の検討を行うとともに、身体拘束廃止に向けた相談窓口の設置や相談員養成研修の実施などをおして、介護保険施設等の取り組みを支援してきました。平成15年度には、身体拘束廃止の重要性を広く県民に周知するとともに、この間の取り組みを集約し新たな第1歩を築くものとして「沖縄県身体拘束ゼロシンポジウム」を開催し、「身体拘束ゼロおきなわ宣言」が採択されました。今回作成しましたこの身体拘束廃止事例集も、支援の一環として、各施設から提供頂いた身体拘束廃止の具体的な取組事例・工夫等を取りまとめたものです。介護の現場で日々身体拘束廃止に向けて御苦労されているスタッフの皆様が参考にして頂ければ幸いです。

「わが国の高齢化の進展は、人類社会が初めて経験する未知の領域である。」2015年には、このような超高齢社会を迎えます。「精神的な自立を維持し、高齢者自身が尊厳を保つ介護」、まさに**尊厳を支えるケア**を実現していくために、介護事業者、家族や県民、行政が手を携えて取り組み、身体拘束の廃止をめざしていきたいと考えています。

最後に、この事例集を作成するにあたり、多大な御協力を頂きました社団法人沖縄県看護協会、医療法人アガペ会北中城若松病院をはじめ、沖縄県身体拘束ゼロ作戦推進会議委員の皆様、身体拘束事例集等作成委員の皆様、並びに具体的事例の提供、検証を行って頂いた各施設の身体拘束廃止検討委員会の皆様には、あらためて厚く御礼申し上げます。

平成17年3月

沖縄県福祉保健部長
稲福 恭雄

身体拘束ゼロおきなわ宣言

私たちは、身体拘束が高齢者の行動の自由を奪い、心と体を深く傷つけることを認識し、全ての高齢者の人間としての尊厳が守られ、生活の質が高められるようなケアを実現するため、身体拘束ゼロに向けて全力で取り組むことを宣言します。

平成16年1月28日

沖縄県身体拘束ゼロ作戦推進会議



目次

第1章 身体拘束廃止の考え方

- | | |
|--------------------------|---|
| 1 . 身体拘束をめぐる法律問題 | 1 |
| ひかり法律事務所 | |
| 弁護士 阿波連 光 | |
| 2 . 家族とリスクを共有するために | |
| 利用者の家族から | 3 |
| 沖縄県呆け老人を抱える家族の会 | |
| 世話人代表 喜瀬 久子 | |
| 3 . 身体拘束とリスクマネジメント | 6 |
| 沖縄県身体拘束ゼロ作戦推進会議 | |
| 委員長 田頭 政三郎 | |
| (沖縄県療養病床協会 医療法人アガペ会 理事長) | |

第2章 事例編

- | | |
|---|----|
| 1 . 事例集の作成にあたって | 8 |
| 2 . 身体拘束廃止に取り組んだ実践事例 | |
| 実践事例 1 わずかに動く右手でソケイ部を引っ掻き、傷が除々にひどくなり、夜間のみミトン使用していた。 | 10 |
| 実践事例 2 胃瘻造設、右上肢による経管栄養チューブ抜去恐れありミトン手袋を使用した。 | 13 |
| 実践事例 3 夜間自分でベッドから降りないように、ベッド4点柵を使用するが、自力で柵を外し転倒するため柵をひもで縛る。 | 15 |
| 実践事例 4 前施設でベッドの4本柵使用の情報あり、下肢筋力強化に取り組み移乗の自立をめざした。 | 17 |
| 実践事例 5 自分でベッドを降りないようにベッド柵を4本にしたり、ベッドを壁にくっつけたりしていた。 | 19 |
| 実践事例 6 胃瘻造設、気管カニューレ挿入あり、自己抜去を繰り返す。また、体動活発、掻痒あり、ベッド柵、四肢拘束をしていた。 | 21 |
| 実践事例 7 大声での独語、暴言、体動の激しさ、目の前の物を投げる等、車椅子座位中に転倒の危険あり、腰ベルトをつける。 | 23 |

実践事例 8	車椅子からの立ち上がり頻回にあり、転倒の可能性が常に高く、家族から患部完治するまで腰ベルト使用の希望あり、車椅子離床時腰ベルトを使用した。	25
実践事例 9	胃瘻の自己抜去や全身の掻きむしりによる創傷を予防するため介護衣を使用。	27
実践事例10	何でも口に入れるため右手を縛る。また、おむつに手が届かないようにつなぎ服を着せる。	29
	「ワンポイントアドバイス」を終えて	31

第 3 章 実態調査結果 32

第 4 章 資料編

1 . 「身体拘束ゼロへの手引き」(抜粋)	49
2 . 沖縄県における身体拘束廃止推進事業の実施状況	67
沖縄県身体拘束ゼロ作戦推進会議設置要項	68
沖縄県身体拘束ゼロ作戦推進会議委員名簿	69
3 . 実態調査アンケート調査票	70
4 . 身体拘束廃止実態調査及び事例集等作成委員名簿	76

【用語の説明】

- 1 . 文中「患者」、「療養者」、「本人」は「利用者」と同義語とする。
- 2 . 文中「痴呆」は「認知症」と同義語とする。